

## 公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 27 年度第 5 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会打合せ会議事記録

I. 日 時：平成 28 年 2 月 29 日(月) 15:00~17:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、伊藤委員、高岡委員、和田委員、金子委員、中西委員、本村委員  
事務局：井端事務局長、野本

### IV. 検討事項

情報リテラシー教育のガイドラインについて、委員全員で再確認をしたところ、指摘事項が出てきたことで再整理することになった。指摘事項など以下のような意見があった。

- ・ 「問題」と「課題」の取り扱いについては、情報専門分科会での検討を踏まえて「問題発見・解決」に統一することにした。
- ・ 前文の部分で、「新しい知の創造を通じてイノベーションに貢献」は内容が重なることが指摘され、イノベーションに貢献できるようにした。
- ・ 「問題発見・解決を思考する枠組み創り」は、枠組み自体を考えるのではないので、枠組みに留めることにした。
- ・ 体系化した図の下に説明として到達目標 A, B, C を記述していたが、前文の最後のところに含めることにした。
- ・ 体系化した図については、到達目標 A, B, C の関連を吹き出しを用いて表現していたが、分かりにくい指摘があり、①~④の枠内に B, C を記述するなどの工夫が指摘された。例えば、①目標設定過程では、情報収集、データ分析、作業計画と説明にしてはどうか。B は現実問題を倫理面で考える C は科学的な面で考えるなどで考えてはどうか。
- ・ 到達目標 A は、用語の統一などから「問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組み、情報通信技術を適切に活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる。」に更新した。
- ・ 到達点については、到達目標と重複していることから変更し、「1. 問題発見・解決を思考する枠組みを理解する。」、「2. 枠組みを活用して与えられた問題を解決できる。」、「3. 答えのない問題に対して自ら問題発見・解決することができる。」とした。
- ・ なお、到達点の内容も変更内容に合わせる必要があるが、次回の検討にすることにした。
- ・ 問題発見・解決に統一することから、課題の表記を変更することにし、到達目標 C を「情報通信技術の仕組みを理解し、モデル化とシミュレーションを問題発見や問題解決に活用できる。」に更新した。
- ・ ガイドラインに対応した授業案が説明を補い更新して提出され、更新分としては表計算ソフト、ワープロソフトなどの表現にする、問題解決部分は問題発見・解決の表現を用いるなどの意見があった。B, C の情報側面からの関連付けが不足しているのではないかと、大会の時の資料を利用してはどうか。

### VI. 今後の予定について

- ・ 次回は、3 月 29 日に開催し、情報リテラシー教育ガイドラインの表現を含む整理について検討を継続することにした。